

メダル・聖遺物入
［イエズス会紋章］結束
（外海潜伏キリシタン文化資料館蔵）

令和8年度世界文化遺産
「長崎と天草地方の
潜伏キリシタン関連遺産」
地域還元事業

―講演会―

日本キリシタン史における メダイの諸段階



メダル・コンタツ結束
（重要有形民俗文化財、
平戸市生月町博物館・島の館蔵）
提供：平戸市

日　時　令和8年（2026）**12/6**［日］
13：00～15：45（開場12：30）

会　場　富津地区コミュニティセンター
（熊本県天草市河浦町崎津1117-2）

事前申込　申込方法：11月1日（日）～11月30日（月）までに、
電話またはメール（イベント名、氏名、住所、電話番号を記入）で
天草ロザリオ館へお申し込みください。
▶電話：0969-42-5259　▶Mail：rozario@city.amakusa.lg.jp

参加無料

16世紀、波濤を越えて海を渡り、わが国にキリスト教を伝えた宣教師たちの手によってもたらされたメダイ（メダル）。布教期、禁教・弾圧・潜伏期、そして19世紀の再布教期と、キリシタン信仰を取り巻く情勢が大きく変化するなか、メダイは絶えずキリシタンたちの祈りを支えてきた。
なぜ、キリスト教の伝来から500年近くの年月を経た今日に至るまで、メダイはキリシタンたちにとって特別な存在であり続けてきたのか。
キリシタン研究の第一線で活躍する3名の研究者が、世界文化遺産に登録された歴史あるこの地に集い、メダイに込められた信仰と祈りの歴史の魅力を紐解く。

プログラム（予定）

●講演Ⅰ「**布教期のメダイ**」
後藤晃一氏（大分県立埋蔵文化財センター専門幹）

●講演Ⅱ「**江戸時代末期におけるキリスト教の再布教とメダイ―東京国立博物館収蔵品から見えてくるもの**」
今野春樹氏（東京藝術大学大学院非常勤講師）

●講演Ⅲ「**かくれキリシタン信仰におけるメダイ**」
中園成生氏（平戸市生月町博物館・島の館館長）

●座談会「**日本キリシタン史におけるメダイの諸段階**」
ファシリテーター　川口洋平（長崎県埋蔵文化財センター所長）



白蝶貝製メダル
［イエズス会紋章｜イグナチオ・デ・ロヨラ像］
（カトリック崎津教会蔵）

主　催｜長崎県
協　力｜天草市
問い合わせ｜長崎県歴史文化遺産課　TEL.095-894-3171（平日 10：00～17：00）

令和8年度世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」地域還元事業

—講演会—日本キリシタン史におけるメダイの諸段階

講師略歴



後藤 晃一（ごとう こういち）氏

大分県立埋蔵文化財センター 専門幹

キリシタン考古学を専門とし大友宗麟関連遺跡の発掘等に携わる。

広島大学文学部史学科考古学専攻卒業、2011年広島大学博士（文学）号取得。大分県立歴史博物館主幹研究員、大分県立埋蔵文化財センター所長を経て2025年から現職。

主な展覧会企画・図録編集に『キリスト教王国を夢見た大友宗麟』（大分県立歴史博物館、2015）、『宗麟とキリスト教：地中に眠るキリシタンの時代』（大分県立埋蔵文化財センター、2019）、「"BVNGO NAMBAN：宗麟の愛した南蛮文化"」（大分県立埋蔵文化財センター、2020）「愛と芸術の都FUNAI」（大分県立埋蔵文化財センター、2026）。

著書に『キリシタン遺物の考古学的研究—布教期におけるキリシタン遺物流入のプロセス—』（溪水社、2015）、主な共著に『別府大学文化財研究所企画シリーズ② キリシタン大名の考古学』（思文閣出版、2009）、『別府大学文化財研究所企画シリーズ③ 大航海時代の日本と金属交易』（思文閣出版、2014）、論考に「キリシタン遺物の考古学的研究—布教期におけるキリシタン遺物（メダイ）の流入プロセス—」（日本考古学協会『日本考古学』第32号、2011）、「ヴェロニカのメダイ考：平戸草積の新発見資料を中心として」『大分県立埋蔵文化財センター研究紀要』第5号（2022）、「キリシタン墓の副葬品」『季刊考古学164　キリシタン墓研究と考古学』（雄山閣、2023）等。



今野 春樹（いまの はるき）氏

東京藝術大学大学院 文化財保存学専攻保存修復工芸研究室 非常勤講師

キリシタン考古学、近世考古学、文化財保存処理、遼代考古学などを研究。2001年、國學院大學大学院文学研究科日本史学考古学専攻修了。博士（歴史学）。

キリシタン遺跡・遺物の研究や徳川将軍家墓所の調査研究に従事し、2015年から現職。2020年から2023年まで長崎かくれキリシタン信仰用具民俗文化財調査委員会委員を務める。

主な著書に『キリシタン大名の考古学』（思文閣出版、2009）、『近世大名墓所要覧』（ニューサイエンス社、2010）、『東叡山寛永寺徳川将軍家御裏方霊廟』（吉川弘文館、2011）、『墓の考古学』（吉川弘文館、2012）、『キリシタン考古学』（ニューサイエンス社、2013）、『徳川家の墓制』（北陸館、2013）、『近世大名墓の成立』（雄山閣、2014）、『徳川「大奥」辞典』（東京堂出版、2015）、『新日本考古学辞典』（ニューサイエンス社、2020）などがあり、キリシタン文化や近世大名墓、徳川将軍家墓所に関する数多くの論文・講演実績を有する。

また、最近の関係論考に「キリスト教再布教期のメダイについて—東京国立博物館収蔵品を中心に—」（早稲田大学考古学会『古代』第 154・155 合併号、2026）（科学研究費補助金 基盤研究（C）研究代表者 浅野ひとみ「キリシタン信仰具」）等がある。



中園 成生（なかぞの しげお）氏

平戸市生月町博物館・島の館 館長

キリシタン・かくれキリシタン信仰、漁業史（捕鯨）、民俗などを研究。1986年熊本大学文学部（民俗学）卒業後、福岡県、佐賀県内で文化財・社会教育業務に従事。その後生月町（現平戸市）に移り、平戸市生月町博物館・島の館学芸員を経て2023年より現職。2020年から2023年まで長崎かくれキリシタン信仰用具民俗文化財調査委員会委員を務める。

キリシタン・かくれキリシタン関係著書に『生月島のかくれキリシタン』（島の館、2000）、『かくれキリシタンとは何か』（弦書房、2015）、『かくれキリシタンの起源』（弦書房、2018）。関係論考に「生月島のかくれキリシタン信仰」『かくれキリシタンの聖画』（小学館、1999）、「平戸地方キリシタン概史」『島の館だより』13（島の館、2009）、「キリシタン考古学の可能性」『日本考古学協会2012年度大会研究発表要旨』（日本考古学協会、2012）、「かくれキリシタン」『民俗学事典』（丸善出版、2014）、「世界遺産における、かくれキリシタンの捉え方と課題」『日本民俗学』302号（日本民俗学会、2020）、「かくれキリシタンの信者と信仰—ハッタイ様の行事と伝説から見えてきたこと—」『季刊民族学』174〔第44巻4号〕（千里文化財団、2020）等。

ファシリテーター

川口 洋平（かわぐち ようへい）

長崎県埋蔵文化財センター 所長

長崎県文化財専門職を経て、2026年より現職。「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産の登録に携わる。専門は歴史時代考古学。総合研究大学院大学博士（文学）。

会場地図

富津地区コミュニティセンター

（熊本県天草市河浦町崎津1117-2）

